



吹く風に初夏の香りが漂ってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。
今号は、第一回定例会議会で決定された「茨城県平成26年度予算案」について、お伝えします。新たに予算がついた取り組みを中心に、私が注目したものを紹介します。以前より私が提言してきたものが多く採用されました。思いが形になるのはとてもうれしいことです。

これからも皆様の声を県政に届ける身近な議員として頑張ります。

茨城県議会議員 **大谷明**



茨城県の 平成26年度予算案が 決定されました

県の予算
トピックス
2014

1

今年は県北が熱くなるか?! ~「よそ者」「若者」「ばか者」発想で元気に

もし皆様の中で、温めていたビジネスアイデアや地域振興への情熱がある方は、奮ってご応募ください。(詳しくは茨城県庁企画部県北振興課まで)

成講座を開催し、その中から選ばれた4件に対して、200万円ずつ活動経費を出し、プラン実現のためにコーディネーター支援をつけるという事業です。

また、「よそ者」とは、過去にとらわれず、失敗を恐れず、どんどん前に突き進んでいける人のこと。そして「ばか者」とは、言葉は

この三者がしっかりと機能することで、県北が少しでも元気になるというですね。私も県北地域の盛り上げに一役買えるよう頑張ります。

人口減少と急激な少子高齢化が進む県北地域を活性化しよう、今年度は県北の地域振興に新たな予算が多くつきました。県北リアに含まれるひたちなか市に住む私も注目しています。

まず一つ目に紹介したいのが、「県北地域ビジネス創出支援事業」です(予算2000万円)。県北地域の資源を活用する、もしくは県北地域の課題解決につながるビジネスプランを、大学連携校と一般校とで公募します。

そして、大学連携校では大学との連携によるビジネスプランを作成し、一般校では起業家育成講座を開催し、その中から選ばれた4件に対して、200万円ずつ活動経費を出し、プラン実現のためにコーディネーター支援をつけるという事業です。

また、「アイデア提案型インタビュー」(就業体験)促進事業も新しい取り組みとして目を引きます(予算1000万円)。

これは、学生の柔軟なアイデアが欲しい県北地域の企業と都市部の学生とのマッチングを図るため、その橋渡し役に奔走してくれる人を募集するという事業です。

よく地域の活性化には、「よそ者」「若者」「ばか者」が欠かせないと言われます。

悪いですが、常識では思いつかないような、奇想天外なことを言うけれど、これまでになかった斬新なアイデアを生み出すことのできる人です。

この三者がすべてそろっていることが、地域振興や活性化には不可欠だと言われています。考えてみると、今回の県北振興施策では、この3つの視点が取り入れられています。ただのアイデアではなくしっかりとビジネスプランとして練る機会を作ること、第三者の視点、すなわち「よそ者」視点を取り入れられます。また、学生のインタビューは、学生ならではの新しいアイデアで「ばか者」発想が期待できます。そして最後に、ビジネスプラン実現のためのコーディネーターの方には「若者」役として、前に進めるべく奔走して頂きたいと思っています。

私が2011年12月の一般質問で取り上げた「地産外産」がようやく一歩前進することになりました。

「地産地消」はよく聞きますよね。その地域で生産されたものを、その地域で消費することです。

一方「地産外産」とは、その地域で生産されたものをとんとん外売り込み、外貨を稼ごうとすることです。国内はもちろんです。今、海外が重要な市場となっております。

しかし、茨城県は出遅れています。「輸出促進協議会」が発足されたのは全国で36番目です。全国2位の農業産出額を誇るのにも関わらず、販路開拓が進んでいないのは本当にもったいないことです。全国を見渡すと、「地産地消・外産課」という部署を設けている県もあるくらいです。

そんな中、ようやく茨城県に全国40番目、北関東では初となる「日本貿易振興機構(ジェトロ)」の事務所が設置されることになりました。ジェトロは、貿易投資の相談や、海外展開に関するセミナーや研修会の開催、海外バイヤーを招く等の業務を行う機関です。

ジェトロと連携することで、きめ細かな支援を頂き、1つでも多くの具体的な成果に結びつけてほしいと思います(予算11600万円)。

4 「地産外産」へ向けた大きな一歩

「シニアカード」が新登場！ 「まる福」対象拡大へ

黄色い「いばらき KidsClub(キッズクラブ) カード」はすでに浸透していますが、今年から新たに「シニアカード」(高齢者優待カード)が公布されることになりました。

カードの裏面には緊急連絡先やかかりつけ医等、保険証にない情報を掲載できるようになっています。

対象は県内在住の65歳以上のひとり暮らしもしくは配布希望の方です。原則、本人が市町村高齢福祉担当の窓口か、地域包括支援センターの窓口に行って受け取らなければなりません。協賛店では割引やポイント加算等の優遇も受けられますので、ぜひお申込みをし、有意義に使って頂きたいと思います。

平成26年10月より、小児医療費助成の対象年齢が、現行の小学3年生から、**外来を小学6年生、入院を中学3年生までに拡充します。**

経済的な負担が減る家庭も多く、とてもありがたい制度です。

一方で、この制度を受けて、病院の利用件数がこれまで以上に増えるのではないかと懸念もあります。外来の場合、医療機関ごとに1日600円、月2回までという制限があります。ぜひ節度あるご利用をお願いしたいと思います。



- ◆ 1973(昭和48)年、ひたちなか市にて、教師の父(旧那珂湊市出身)と看護師の母(岩手県盛岡市出身)のもとに生まれる

◆ 長堀小学校・勝田第一中学校・茨城高等学校・中央大学経済学部国際経済学科を卒業

◆ 1995年、株式会社読売広告社に入社。13年間営業マンとして、様々な企業や自治体の課題解決の仕事に携わる

◆ 2008年、松下政経塾入塾

◆ 2010年、茨城県議会議員選挙にて初当選

◆ 保健福祉委員会・文教警察委員会・農林水産委員会を経て、現在、総務企画委員会に所属し活動中

◆ 家族 妻・娘(2歳)

◆ 趣味 書道・剣道・Saxophone演奏・秘湯めぐり

◆ 好きな言葉

他を燃やさんとすれば自ら燃え、
他を照らさんとすれば自ら光らなければならない

昨年行われた「住みよきラ
ンキング2013」で、茨城県
は高い評価を得ました。関
東エリア（一都六県）におけ
る住みよきTOP20の市町
村を見ると、なんと7市、三
分の一が茨城県なのです。
そんな茨城県も「地域ブラ
ンド調査2013」の魅力度
ランキングでは全国最下位。
「茨城は本当に住みやすいの
残念ね」という声を多く聞
きます。また、「東京の大学
に行つて、茨城出身というの
がちやうと恥ずかしい」とい
う若者もいました。

けではなく、イメージアップ
も一緒に図ていかなければ
なりません。
そのような声を反映してか
今年は県のイメージアップ関
連の予算が拡充されます。
インターネットテレビ「いば
キラTV」は地域情報番組を
充実させる予定です(予算:
2億3900万円)。TVはコ
ンテンツが命です。ぜひ魅力
的なコンテンツで視聴者を楽
しませてもらいたいと思いま
す。皆様もぜひ一度、ご覧
ください。

い店舗で展開します。
しかし、どれも茨城のこと
を知ってもらう一定の効果
が得られるだろうと思う一
方で、全国最下位と言われ
るイメージを変えることが
できるのか、疑問が残るのも
正直なところです。イメージ
アップのための取り組みは様
々やっていますが、レディカ
県がやっていた施策が多いの
が気になります。こうした
「後追い感」も県のイメージ
に大きく影響しているのでは
ないでしょうか。

ん、綾部祐二さんに宣伝隊
長をお願いしましたが、ここ
らも隣の栃木県のやり方
と同じだという指摘を受
けることがあります。せつ々
かの施策も、二番煎じが多
いと、茨城県のイメージダウ
ンにつながる可能性もあり
ます。

一例を挙げるなら、アンテ
ナショップの出店方法も、銀
座の「等地下」か所てなく
てもよいのかもしれない。
都内数ヶ所に小さな店舗を
絞り込んで出店するという
考え方もあります。
広さは10坪以内で出店コス
トを抑え、例えば「茨城のほ
しい」も00種類以上を気
軽な価格で食べ比べできる
店をオオクス街の品川に、
または「茨城のメロン」を食歩
きできるようカップで提供し
てくれる店」を若者が休日
ウィンドウショッピングを楽し
む自由が丘に、そんな小規
模出店で話題を作るのも面
白いと思います。



新年度の予算を前にして、
昨年度の取り組みに対する
反省と課題がまとめられな
いことに、いつも不満を感じ
ています。特に、新規で行っ
た事業に関しては、どうだっ
たのか一度振りかえる必要
があるでしょう。

というわけで、予算として
は300万円と少なかったの
ですが、昨年初めて行われ
た「第1回おみやげコンク
ール」を私なりに振りかえりた
いと思います。

私は「おみやげ」は非常に
重要な課題が含まれている
と思います。「おみやげ&お
取り寄せプロジェクト」して
予算と人員も増やし本格的
に取り組んでもらいたいと思
っています。なぜかとしま
すと、先述の茨城県のイメ
ージやブランド力と密接に
関わっているからです。

昨年茨城県は「おもてなし
レベルアップ事業」の中で、29
の宿泊施設への覆面調査を
行いました。挨拶・気配り・
清掃・大浴場・夕食・朝食と

▼いばキラTVの主な番組コンテンツ (インターネットでいつでも見られる番組)

【視聴方法】
インターネットで「いばキラ」と検索
⇒「オンデマンド」をクリック

様々な項目での評価が下さ
れていたのですが、中でも私
が目にしたのが「売店の品揃
え」です。
なんと、売店かと思われ
るかもしれないですが、総合評
価への影響度が非常に、非
常に低い評価に留まっていま
す。

私の場合ですが、宿に泊ま
る時、売店を必ずチェックし
ます。そこで特産物を知るこ
とが多いです。またいいおみ
やげがあれば、それを買って
贈る楽しみも生まれます。
それなのに、売店が充実して
いないとさびしいですね。
でも、宿の立場で考えると、
そもそも売店に置きたくな
るようなおみやげがないと

いう話もあるわけです。
もつと積極的に真剣に「お
みやげや、最近注目の「お
取り寄せ」も狙いつつ、盛り
上げて頂き、「第1回」と銘
打っているからには、ぜひ2
回、3回と続けて実施し、
「おみやげコンクール」に注目
が集まるようになればと思
います。

ちなみに、「第1回」の受賞
商品を二紹介すると、最優
秀賞が「メロンバウムクーヘン」
(深作農園)、優秀賞が「国
際食肉機械専見本市で金
賞・銀賞を受賞した常陸牛
& ローズポークのセット」(ア
イジマ)、「本格梅酒 梅香百
年梅酒(明利酒類)」、奨励
賞が「メッ甲ほしい」(幸田

商店、「元祖はま栗」(丸三
老舗)でした。
審査員の方々のコメントを
読むと、女性のお二方がと
もに、「おみやげを受け取る
側の気持ち」を配慮してい
ることが印象的でした。
例えば、最優秀賞に輝いた
「メロンバウムクーヘン」。パッケ
ージのデザインがとても美し
く、高級感と品を感じさせ
るものなのですが、「メロンを
そのままらえたような嬉
しさがこみ上げてくる」と表
現されています。
また、「元祖はま栗」。ここ
らは最中なのですが、鹿島
灘はまぐりの形をしていて
ネットに入っています。茨城
県産の栗を使った餡が入つて

「あれもこれもではなく、
「焦点を定めて」という話を
何度も提言してきました。
そこにぜひオリジナリティを
加え、他県に負けない面白
い取り組みを実現して頂き
たいと思います。私も色々な
アイデアを投げかけてみ
ます。
これまでも県のPRに対し
「あれもこれもではなく、
「焦点を定めて」という話を
何度も提言してきました。
そこにぜひオリジナリティを
加え、他県に負けない面白
い取り組みを実現して頂き
たいと思います。私も色々な
アイデアを投げかけてみ
ます。



▼元祖はま栗(丸三老舗) ▼メロンバウムクーヘン(深作農園)